

平成30年度

第2回庄原市道徳教育推進委員会研修会

- 日 時：平成30年9月18日（火） 13：30～16：40
- 場 所：庄原市立板橋小学校
- 対象者：庄原市内各小・中学校の道徳教育推進教師26名

目 的

道徳教育の要である道徳の授業の特質について理解し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につなぐ道徳の授業づくりのポイントについて研修を行い、具体的な指導方法を学ぶ。

研究授業 第1学年 道徳科 「はしの上のおおかみ」

授業者 板橋小学校 教諭 小野 恵里子

研究協議

司会者 板橋小学校 教諭 福原 正隆

【研究授業の概要】

- 中心発問を「くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみは、どんなことを考えていたのでしょうか。」とし、役割演技などを通して、おおかみの心の変容を考えさせた。一般化する場面では、日常の様子の写真を提示し、身近な人に親切にしようとする心情を高めた。
- 研究協議では、中心発問はどうであったか、一般化する手立ては適切であったかについて協議を深めた。



指導・助言 「道徳科における評価の実際について」

広島県教育委員会 豊かな心育成課 指導主事 渡辺 剛



【指導・助言の概要】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、どのように問題意識をもたせるか、いかに自分との関わりで捉え、考えることができるか、そして、多面的・多角的な視点で考えることが大切である。そのためには、学習環境の工夫や教師の教材分析、発問力が必要となる。
- 道徳科の評価は、指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなければならない。

受講者より

- ・ねらいにせまるために児童生徒にどう思考させていくかが重要であり、そのためには資料分析が必要であると感じた。
- ・繰り返し発問を精選し、道徳的価値を深めることが大切であることを学んだ。今後、自身の授業に生かしていきたい。